

平成28年度 学校評価アンケート結果（後期）について

“保育”

項目1「自分から遊びを見つけて遊んでいる」では、前期と大きく変わらない結果でした。4歳児は前期と比べると少し評価結果が上がっていました。園生活に慣れ幼稚園が安心できる場になり、自分の好きな遊びがみつけられるようになってきた成長を保護者も感じておられることができました。項目3「遊びや様々な感情体験など園生活を通して成長を感じる」では、5歳児も4歳児も評価結果が一番高かった項目です。

アンケート全体を通して“保育”部分の評価が高い結果が見られ、保護者の方が幼稚園生活を通して、子どもたちの成長を感じておられることができました。

“連携”

連携面では、項目9「開智幼稚園の友達との連携を通して開智幼稚園の友達に親しみを感じている」項目10「小学生に親しみを感じている」では、前期よりも評価結果が下がっていました。開智幼稚園との交流では、年度当初に年間計画をたて交流保育や合同園外保育にも取り組んできました。評価が低い理由としては、「子どもから話を聞かない」という意見が多くみられました。これは、項目10「小学生に親しみを感じている」の項目が低い要因と同じでした。前期のアンケート結果からは、直接的なかかわりが少なかったことや、「1学期なので、これからだと思う」という意見も見られ、後期との比較につながっていくと思われましたが、子どもが親しみを感じているかどうかは見えにくいところもあり、評価が難しい項目だったのではないかと感じました。

“家庭”

家庭面では、全体的に評価が低い結果が見られ、保護者の評価が厳しくなる傾向があると感じます。その中で前期と同じ項目12「生活リズムを整え生活している」では、前期よりも若干評価結果があがっており、保護者の意識が高まっていることを感じます。項目14「子どもは、家族・先生・友達など周りの人に親しみを持ち挨拶している」が低い理由としては、「自分からしない、声が小さい」などの意見が見られました。今の時期には、周りの人と挨拶を交わすと気持ちがよいなど子ども自身が感じる経験を大事にしていきたいと思います。そのためにも、大人がよきモデルとなり、気持ちのよい挨拶をしていきたいと思います。家庭の項目の中で評価が高い項目は、項目15「めざせ100冊親子で読書の取組を楽しみ絵本ノートを活用している」でした。幼稚園の取組に保護者も意識をもって取組んでくださっていることがわかりました。

“情報発信”

情報発信としての結果は、若干評価があがっていました。これからも、園の教育や取組を発信していくように取り組んでいきたいと思います。

自由記述より意見抜粋

- 幼稚園弁当を食べるようになったことで、以前は食べられなかった食材も好きではないが食べるようにしている姿勢が見られる点が嬉しく思います。
- あお組や同じもも組のお友達とのかかわりでいろんなことをよく見て、とても楽しんで一緒に遊んでいる様子で、沢山の刺激をうけているのがよくわかります。同時に自分より幼い子たち(ひよこ・たまご組)への優しさや思いやりの気持ちも育っていってほしいと思います。
- もうすぐ卒園となります、家庭ではなかなか充分に遊んでやれないようなところでも、幼稚園で充分遊ばせてもらっていて、とてもありがたいと思い、とてもよい幼稚園生活を送れてよかったです。
- 熱がでても幼稚園へ行きたいと申します。あまり預かり保育をしてやれないのですが、“また、預かりもしたい” “今までに何回した” かと数えるくらいとてもとてもすべてが楽しいようです。本当に幼稚園にいれてやれてうれしく思っています。親も勉強の毎日で楽しくす

ごしたいと思っています。

- 預かり保育の時間が楽しいようで、「今日も預かりだよ」と言うと喜んで登園します。子どもが気に入って預かりの時間を過ごしてくれているので親としても助かります。
- いつも子どもに寄り添って保育していただいているなと感じています。

学校運営協議会より

- アンケート結果から遊びや様々な感情体験など園生活を通して成長を感じる評価結果が高いのは嬉しいことだ。一方で、園生活を通して基本的な生活習慣が身についているかの項目の評価結果が低いが、基本的生活習慣の面に対しての期待値が高く、結果として厳しい評価になってしまったのではないだろうか。
- 子どもが、幼稚園が楽しいと思えることが大事。今後も幼稚園生活を通して好きなことや楽しいとおもえることをたくさん見つけられるようにしてほしい。